あおぞら投信株式会社

AOZORA

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、お手持ちの「あおぞら・徹底分散グローバル株式ファンド“愛称 てつさん”」は、去る12月10日に第10期の決算を行いました。本ファンドは日本を含む世界の株式に広く分散投資を行うことで、信託財産の長期的な成長を図ることを目的として運用を行っております。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、法令に基づいて運用状況をまとめてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

交付運用報告書

あおぞら・徹底分散グローバル株式ファンド

愛称 てつさん

追加型投信／内外／株式

第10期末（2024年12月10日）	
基準価額	25,360円
純資産総額	12,917百万円
第10期（2023年12月12日～2024年12月10日）	
騰落率	27.7%
分配金合計	0円

（注）騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

○本ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。また、運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

＜運用報告書（全体版）閲覧方法＞

右記ＵＲＬにアクセス ⇒「ファンド情報」を選択 ⇒「基準価額一覧」より該当のファンドを選択 ⇒「運用報告書（全体版）」を選択

第10期

決算日

第10期　2024年12月10日

作成対象期間（2023年12月12日～2024年12月10日）

あおぞら投信株式会社

東京都千代田区麹町６－１－１

■ホームページアドレス（基準価額をご確認いただけます。）

https://www.aozora-im.co.jp/

■お問い合わせ先

＜お問い合わせ窓口＞

050-3199-6343

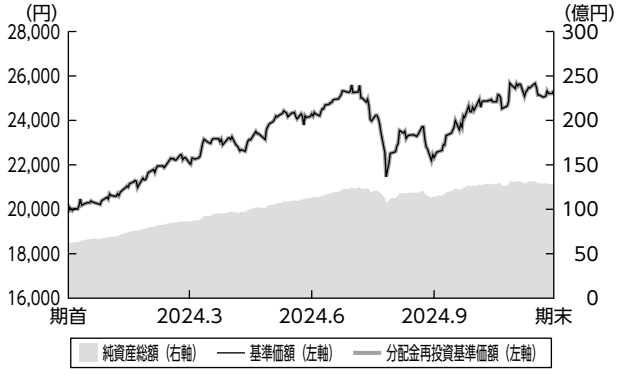
受付時間：
営業日の午前９時から
午後５時まで

＊お取引内容等につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。

アンケートへのご協力のお願い
巻末（15ページ）をご参照ください。

運用経過（2023年12月12日～2024年12月10日）

基準価額の推移



第10期首：19,860円
第10期末：25,360円（既払分配金0円）
騰落率：27.7%（分配金再投資ベース）

＊分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
＊分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客さまの損益の状況を示すものではありません。
＊分配金再投資基準価額は、期首（2023年12月11日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
＊上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。

基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、当期末において25,360円となり、当期のリターンは27.7%（信託報酬控除後）の上昇となりました。

期初の主要中央銀行による利上げ打ち止めや早期利下げ観測が台頭する中、生成ＡＩ（人工知能）向け半導体需要への期待に加え、底堅い経済指標を背景に景気のソフトランディング（軟着陸）期待が高まりました。期末にかけても、地政学リスクやインフレ再燃が警戒されたものの、中国の追加景気刺激策や底堅い米経済指標を背景とした先進国株式市場および新興国株式市場の大幅上昇が、基準価額の上昇要因となりました。また、ドル円為替レートの円安進行も基準価額の上昇要因となりました。

１万口当たりの費用明細（2023年12月12日～2024年12月10日）

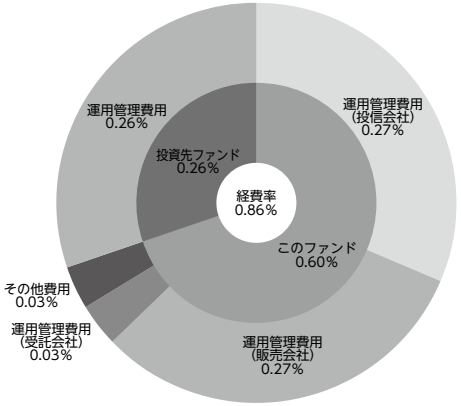
項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	135	0.576	(a) 信託報酬＝〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率 期中の平均基準価額は23,393円です。
（投信会社）	(64)	(0.274)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(64)	(0.274)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(6)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	7	0.030	(b) その他費用＝〔期中のその他費用〕／〔期中の平均受益権口数〕
（監査費用）	(2)	(0.007)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(6)	(0.024)	目論見書等の法定書類の作成・印刷・届出および交付に係る費用ならびにファンドの計理業務およびこれらに付随する業務に係る費用
合計	142	0.606	

（注１）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
（注２）各項目毎に円未満は四捨五入してあります。
（注３）「比率」欄は「１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。
（注４）各項目の費用は、本ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

（参考情報）

経費率

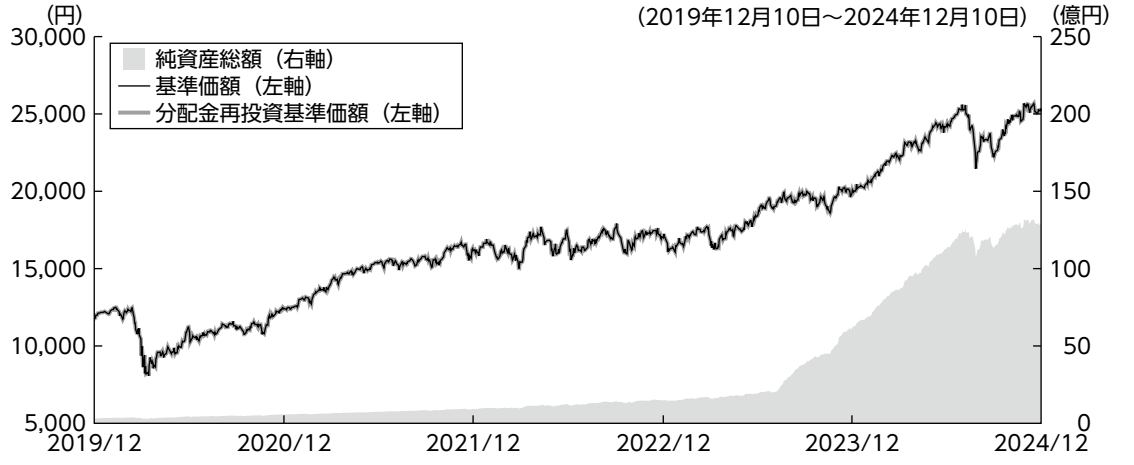
当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は0.86％です。



経費率（①＋②）	0.86%
①このファンドの費用の比率	0.60%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.26%

（注１）①の費用は１万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注２）②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理費率を乗じて算出した概算値です。
（注３）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
（注４）各比率は、年率換算した値です。
（注５）投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。
（注６）①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。
（注７）①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
（注８）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近５年間の基準価額等の推移



（注１）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の本質的なパフォーマンスを示すものです。
（注２）分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客さまの損益の状況を示すものではありません。
（注３）分配金再投資基準価額は、2019年12月10日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

決算日		2019年12月10日 (期初)	2020年12月10日 (決算日)	2021年12月10日 (決算日)	2022年12月12日 (決算日)	2023年12月11日 (決算日)	2024年12月10日 (決算日)
基準価額	(円)	11,766	12,404	16,159	16,989	19,860	25,360
期間分配金合計（税引前）	(円)	－	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	－	5.4	30.3	5.1	16.9	27.7
純資産総額	(百万円)	295	568	918	1,482	6,143	12,917

（注１）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。また、純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
（注２）本ファンドは、日本を含む世界の株式に、市場における代表的なインデックスよりも広く分散投資を行うことを基本方針としております。このため、本ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を設けておりません。

投資環境

当期の先進国株式市場は、大幅上昇しました。当期初は、米労働市場の底堅さが確認されたことに加えて、米ＣＰＩ（消費者物価指数）とＰＰＩ（卸売物価指数）の伸びが鈍化したことを背景にＦＲＢ（米連邦準備理事会）が利上げを見送るなど、ＥＣＢ（欧州中央銀行）をはじめ主要中央銀行による利上げ打ち止めや早期利下げ観測が台頭する中、ハイテク株を中心に買い直す動きが活発化し、上昇して始まりました。その後も、ＡＩ向け半導体需要への期待や、好調な企業決算を背景に上昇基調となったものの、インフレ高止まりへの警戒から主要中央銀行による利下げ開始が先送りされるとの観測が強まる中、中東情勢の緊迫化や生成ＡＩ向け半導体需要への過度な期待が後退し、４月半ばには調整する場面もありました。米大統領選挙や欧州政治を巡る不透明感、中国の景気減速懸念が嫌気されたものの、ＥＣＢが利下げを開始したことに加えて、米労働市場の減速や米ＣＰＩの伸びが鈍化したことを背景に、ＦＲＢによる早期利下げ観測が台頭したことが支えとなりました。８月初には、米景気減速懸念を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、世界的に大幅下落となりましたが、その後発表された堅調な米経済指標を受けて急速に持ち直したほか、ＥＣＢが追加利下げを決定し、ＦＲＢも４年半ぶりに大幅利下げを決定したことから、景気のソフトランディング期待が追い風となりました。期末にかけては、中東やウクライナ情勢を巡る地政学リスクやインフレ再燃、独仏政局不安が重石となったものの、中国の追加景気刺激策や、米大統領選でのトランプ氏勝利を受けて、減税や規制緩和への期待に加えて、欧米主要中央銀行による利下げも安心材料となり、先進国株式市場は上昇基調を維持しました。

新興国株式市場は、上昇しました。当期前半は、不動産不況をはじめとする中国景気の先行き不透明感が重石となった一方で、ＡＩ関連の半導体需要増加への期待のほか、中国政府による不動産関連の規制緩和や資本市場支援策への期待から上昇しました。その後も、先端半導体を巡る米中対立激化への警戒感や、米中景気の後退懸念から投資家のリスク回避姿勢が強まり、大幅調整する局面が見られたものの、堅調なグローバルハイテクセクターや、過度な米景気後退懸念が和らいだことが支えとなりました。期末にかけては、米大統領選でのトランプ氏勝利を受けて、関税引き上げなど米中対立激化への警戒が重石となったものの、中国政府による追加の景気刺激策／市場支援策への期待が支えとなり、新興国株式市場は上昇しました。

ドル円為替レートは期中乱高下が見られたものの、円安となりました。当期は146円台で始まった後、パウエルＦＲＢ議長をはじめＦＲＢ高官が利下げに慎重な姿勢を示すなど、米インフレ高止まりを背景にＦＲＢの利下げ開始先送り観測が強まった一方で、日銀がマイナス金利解除やイールドカーブ・コントロール（ＹＣＣ、長短金利操作）撤廃を決定しつつも、緩和的な金融環境の継続を示唆すると、日米金利差が意識されて当期半ばにかけて円安基調となりました。その後、日銀による長期国債の買い入れ減額が先送りされると、一時37年半ぶりに161円台まで円安が進みましたが、政府／日銀による円買い介入と見られる動きや日銀による追加利上げを受けて、円が急伸しました。当期末にかけては、９月のＦＯＭＣ（米連邦公開市場委員会）で大幅利下げが決定されたことや中東情勢の緊迫化、欧州や韓国の政局不安が円高要因となった一方で、堅調な米経済指標を背景に、より緩やかなＦＲＢによる利下げペースになるとの見方が強まったほか、米大統領選でのトランプ氏勝利に伴い米国債増発への警戒から米金利の先高観が意識され、151円台後半まで円安が進みました。

当該投資信託のポートフォリオ

本ファンドでは当初の運用方針通り、２つの組入れファンド（先進国株式：ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　グローバル・コア・エクイティ・ファンド、新興国株式：同エマージング・マーケット・バリュー・ファンド）への投資を通じて日本を含む世界の株式（新興国の株式を含みます。）に広く分散投資を行うことで、信託財産の成長を図ることを目的として運用を行いました。

先進国株式と新興国株式の組入比率は、株式時価総額比率を勘案して、概ね先進国株式80％：新興国株式20％としました。

組入れファンドにおける当期の運用状況は以下の通りです。

＜ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　グローバル・コア・エクイティ・ファンド＞

投資対象銘柄において、３つの側面（＝ディメンション、相対株価が低いこと、時価総額が下位であること、収益力が高いこと）に対する傾斜度合いを相対的に高めながら、広範に分散投資することによって、期待リターンの向上を目指しました。2024年11月末時点で、先進25ヵ国の8,005銘柄に分散投資しています。

＜ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　エマージング・マーケット・バリュー・ファンド＞

投資対象銘柄において、３つの側面（＝ディメンション、相対株価が低いこと、時価総額が下位であること、収益力が高いこと）に対する傾斜度合いを相対的に高めながら、広範に分散投資することによって、期待リターンの向上を目指しました。2024年11月末時点で、新興23ヵ国の3,515銘柄に分散投資しています。

当該投資信託のベンチマークとの差異

本ファンドは運用の目標となるベンチマークや参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

分配金（１万口当たり、税引前）

本ファンドの収益分配方針に従い、基準価額水準、市場動向等を勘案し、当期は無分配といたしました。留保益の運用については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

（単位：円・%、１万口当たり、税引前）

	第10期
	自　2023年12月12日　至　2024年12月10日
当期分配金	－
（対基準価額比率）	－
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	15,359

（注１）対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
（注２）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

株式時価総額比率を勘案して、先進国株式と新興国株式の組入れ比率を３ヵ月ごとに見直します。なお、新興国株式への投資比率は、資産総額の20%程度を上限とします。

お知らせ

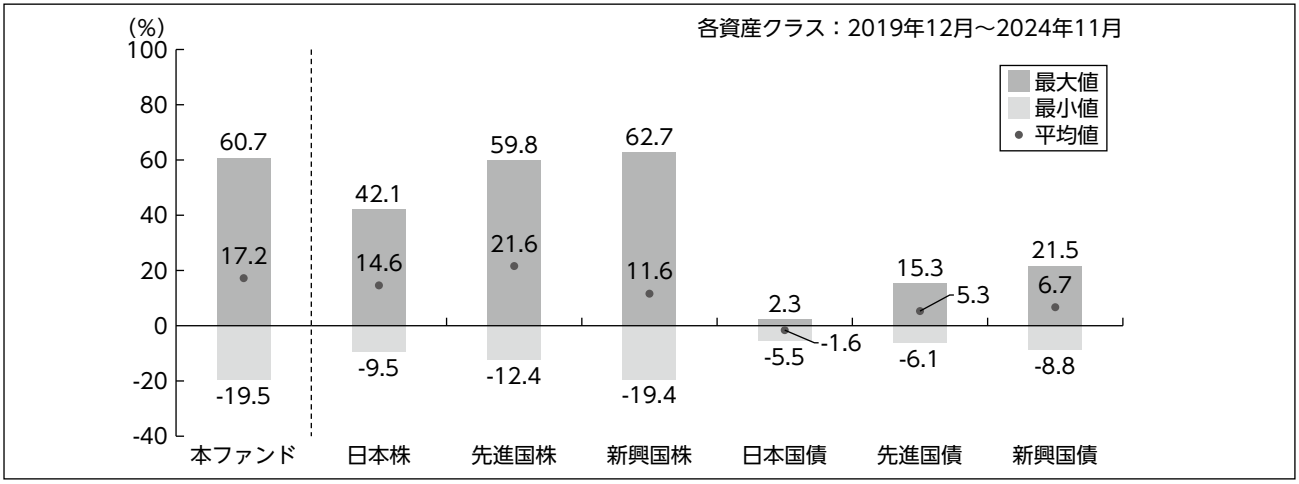
■ファンドから支弁する信託事務の諸費用等のうち、ファンドの計理業務に係る費用を対象外とするため、投資信託約款に所要の変更を行いました。
（信託約款変更適用日：2024年12月11日）

■2024年11月５日以降は、原則として、購入・換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後３時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	原則として無期限
運用方針	日本を含む世界の株式に広く分散投資を行うことで、信託財産の長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。
主要投資対象	以下の指定投資信託証券を主要投資対象とします。 ・アイルランド籍外国証券投資法人（円建て） ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　グローバル・コア・エクイティ・ファンド ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　エマージング・マーケット・バリュー・ファンド
運用方法	①主として、日本を含む世界の株式（新興国の株式を含みます。）を主要投資対象とする別に定める投資信託証券に投資を行います。 ②先進国株式と新興国株式の比率は実態に合わせ適宜調整しますが、新興国株式を主要投資対象とする投資信託証券への投資比率は資産総額の20％程度を上限とします。 ③外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行いません。
分配方針	分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額の範囲とし、収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額等の場合は分配を行わない場合があります。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2019年12月～2024年11月の５年間の各月末における直近１年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を、本ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示したものです。

※上記は、本ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。全ての資産クラスが本ファンドの投資対象とは限りません。
※上記の騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、本ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。
※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。
※本ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

<代表的な各資産クラスの指数>
日本株　･･･配当込みＴＯＰＩＸ
先進国株･･･ＭＳＣＩ－ＫＯＫＵＳＡＩ インデックス（配当込み、円ベース）
新興国株･･･ＭＳＣＩエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
日本国債･･･ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ国債
先進国債･･･ＦＴＳＥ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
新興国債･･･ＪＰモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

※騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。
※配当込みＴＯＰＩＸ（以下「ＴＯＰＩＸ（配当込み）」といいます。）の指数値及びＴＯＰＩＸ（配当込み）に係る標章又は商標は、株式会社ＪＰＸ総研又は株式会社ＪＰＸ総研の関連会社（以下「ＪＰＸ」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などＴＯＰＩＸ（配当込み）に関するすべての権利・ノウハウ及びＴＯＰＩＸ（配当込み）に係る標章又は商標に関するすべての権利はＪＰＸが有します。ＪＰＸは、ＴＯＰＩＸ（配当込み）の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。
※ＭＳＣＩ－ＫＯＫＵＳＡＩ インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。
※ＭＳＣＩエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。
※ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社が発表している国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す指数です。なお、ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社に帰属します。
※ＦＴＳＥ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。
※ＪＰモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、ＪＰモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当該投資信託のデータ

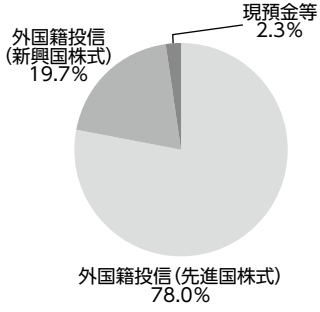
当該投資信託の組入資産の内容（2024年12月10日現在）

○組入ファンド（２銘柄）

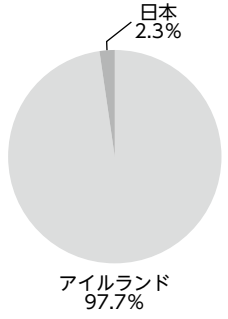
	組入比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　グローバル・コア・エクイティ・ファンド	78.0%
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　エマージング・マーケット・バリュー・ファンド	19.7%
その他	2.3%

※組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

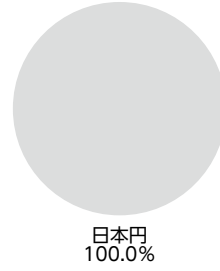
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



※比率は純資産総額に対する割合です。

○純資産等

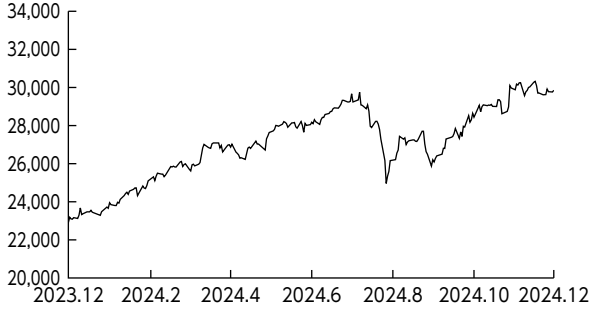
項目	当期末
	2024年12月10日
純資産総額	12,917,999,237円
受益権総口数	5,093,919,039口
１万口当たり基準価額	25,360円

※当期中における追加設定元本額は2,925,640,164円、同解約元本額は924,990,739円です。

組入上位ファンド（銘柄）の概要

ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　グローバル・コア・エクイティ・ファンド

基準価額の推移（2023年12月12日～2024年12月10日）



（注）当該ファンドの当初組入れ時（2015年３月30日）を10,000として指数化しております。

○上位10銘柄

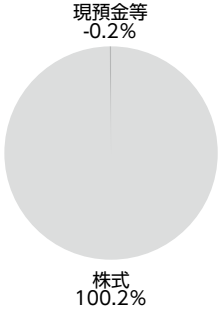
	銘柄名	国・地域	業種名	比率
1	アップル	米国	情報技術	3.5%
2	マイクロソフト	米国	情報技術	3.0%
3	アルファベット	米国	コミュニケーション・サービス	1.4%
4	メタ・プラットフォームズ	米国	コミュニケーション・サービス	1.0%
5	エヌビディア	米国	情報技術	1.0%
6	エクソンモービル	米国	エネルギー	1.0%
7	アマゾン・ドット・コム	米国	一般消費財・サービス	0.8%
8	ジョンソン・エンド・ジョンソン	米国	ヘルスケア	0.7%
9	バークシャー・ハサウェイ	米国	金融	0.6%
10	ブロードコム	米国	情報技術	0.6%
	組入銘柄数		8,312銘柄	

（注）銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

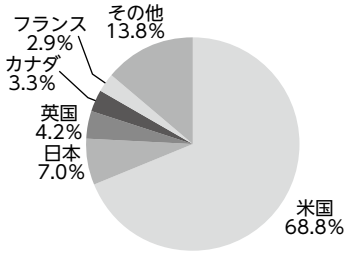
○１万口当たりの費用明細

ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　グローバル・コア・エクイティ・ファンドのAnnual Reportには、１万口当たりの費用の明細が開示がされていないため、記載できません。

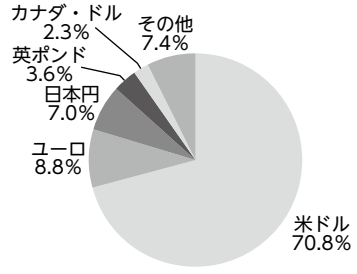
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

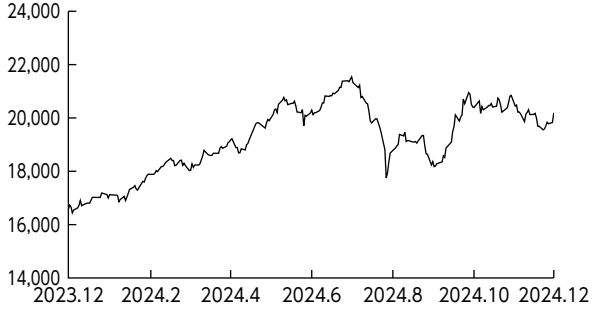


（注１）上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2023年11月30日現在のものです。本データは、ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　グローバル・コア・エクイティ・ファンドのAnnual Reportを基に委託会社が作成したものです。
（注２）１万口当たりの費用の明細は組入れファンドの直近の決算期のものです。費用項目については２ページの注記をご参照ください。
（注３）上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分の比率は、指定投資信託証券の資産総額に対する割合です。

組入上位ファンド（銘柄）の概要

ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　エマージング・マーケット・バリュー・ファンド

基準価額の推移（2023年12月12日～2024年12月10日）



（注）当該ファンドの当初組入れ時（2015年３月30日）を10,000として指数化しております。

○上位10銘柄

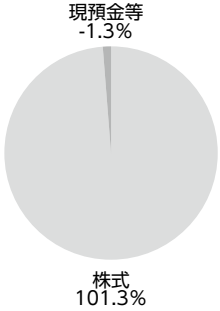
	銘柄名	国・地域	業種名	比率
1	リライアンス・インダストリーズ	インド	エネルギー	2.9%
2	サムスン電子	韓国	情報技術	2.2%
3	中国建設銀行	中国	金融	2.2%
4	ブラジル石油公社（優先株）	ブラジル	エネルギー	1.7%
5	アリババグループ・ホールディング	中国	一般消費財・サービス	1.4%
6	ブラジル石油公社（普通株）	ブラジル	エネルギー	1.4%
7	アクシス銀行	インド	金融	1.3%
8	鴻海精密工業	台湾	情報技術	1.3%
9	中国平安保険	中国	金融	1.2%
10	中国銀行	中国	金融	0.9%
	組入銘柄数		3,213銘柄	

（注）銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

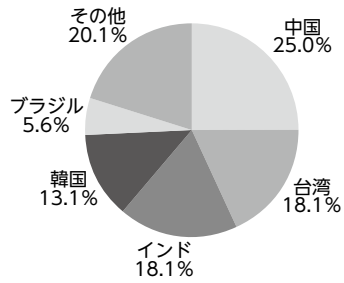
○１万口当たりの費用明細

ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　エマージング・マーケット・バリュー・ファンドのAnnual Reportには、１万口当たりの費用の明細が開示がされていないため、記載できません。

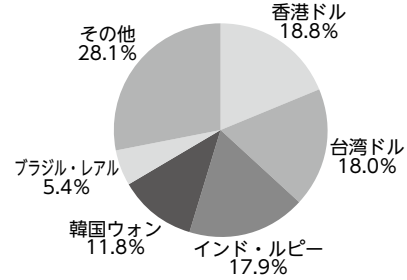
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注１）上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2023年11月30日現在のものです。本データは、ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　エマージング・マーケット・バリュー・ファンドのAnnual Reportを基に委託会社が作成したものです。
（注２）１万口当たりの費用の明細は組入れファンドの直近の決算期のものです。費用項目については２ページの注記をご参照ください。
（注３）上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分の比率は、指定投資信託証券の資産総額に対する割合です。

＜参考情報＞

■指定投資信託証券の運用状況

（注１）指定投資信託証券の運用状況データは2024年11月29日現在のものです。本データは、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズからの情報を基に委託会社が作成したものです。

（注２）各項目の比率は、指定投資信託証券の資産総額に対する割合です。また、各項目の比率は小数点以下第２位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。以下、本ページにおいて同じ。

ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　グローバル・コア・エクイティ・ファンド

○組入上位５銘柄

	銘柄名	国	業種	比率
1	エヌビディア	米国	情報技術	3.4%
2	アップル	米国	情報技術	3.1%
3	マイクロソフト	米国	情報技術	2.6%
4	アマゾン・ドット・コム	米国	一般消費財・サービス	1.8%
5	アルファベット	米国	コミュニケーション・サービス	1.5%
	組入銘柄数		8,005銘柄	

○国別構成比

国	比率
米国	72.7%
日本	6.2%
英国	3.5%
カナダ	3.3%
フランス	2.1%
その他	12.2%
現預金等	0.0%
合計	100.0%

（注）国・業種は、投資顧問会社による定義です。国は当該銘柄のリスク所在国を示しています。

ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー　エマージング・マーケット・バリュー・ファンド

○組入上位５銘柄

	銘柄名	国	業種	比率
1	リライアンス・インダストリーズ	インド	エネルギー	2.6%
2	アリババ・グループ・ホールディング	中国	一般消費財・サービス	2.6%
3	鴻海精密工業	台湾	情報技術	2.3%
4	中国建設銀行	中国	金融	1.9%
5	ブラジル石油公社	ブラジル	エネルギー	1.8%
	組入銘柄数		3,515銘柄	

○国別構成比

国	比率
中国	25.9%
インド	20.4%
台湾	20.3%
韓国	10.2%
ブラジル	3.6%
その他	19.5%
現預金等	0.2%
合計	100.0%

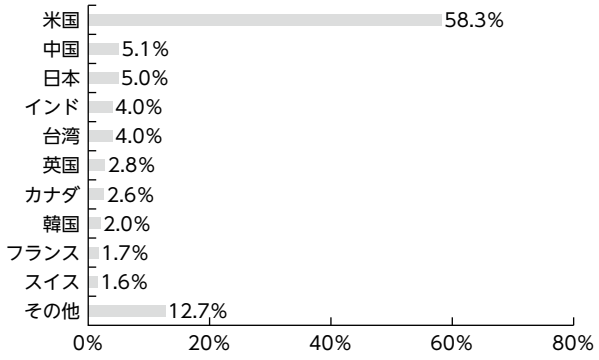
（注）国・業種は、投資顧問会社による定義です。国は当該銘柄のリスク所在国を示しています。

指定投資信託証券の総計

○業種別構成比

業種	比率	業種	比率
金融	19.4%	エネルギー	6.2%
情報技術	17.7%	コミュニケーション・サービス	5.7%
資本財・サービス	13.5%	生活必需品	5.6%
一般消費財・サービス	11.1%	公益事業	2.3%
ヘルスケア	8.6%	リート	1.7%
素材	6.8%	その他	1.4%
組入銘柄数		11,520銘柄	

○国別構成比



（注）国は当該銘柄のリスク所在国を示しています。

（このページは白紙です）

（このページは白紙です）

【Webアンケートご回答のお願い】

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
　ご投資いただいております「あおぞら・徹底分散グローバル株式ファンド“愛称 てつさん”」につきまして、受益者の皆さまに本ファンドおよび当社に関するご意見等をお聞かせいただきたく、アンケートへのご回答にご協力をお願いいたします。
何卒よろしくお願い申し上げます。

【ご回答方法】
①スマートフォンからご回答いただく場合は、右記の画像を読み取っていただき、
　ご回答をお願いいたします。

②パソコンからご回答いただく場合は、以下のURLより、ご回答をお願いいたします。
　URL：https://questant.jp/q/tetsusan_202412

あおぞら投信からのお知らせ

【動画コンテンツのご案内】

弊社Webサイトにて、各種動画コンテンツをご用意しております。

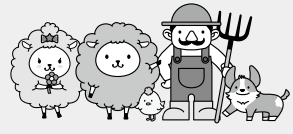
URL：https://www.aozora-im.co.jp/movie/?utm_source=tetsusan&report_202412

マーケット解説動画やファンドの運用状況についての動画を今後とも掲載していく予定でございます。
ぜひご覧くださいませ。

【公式SNSのご案内】

弊社は各種公式SNSアカウントにて、情報発信を行っております。詳しくは弊社Webサイトをご覧ください。

URL：https://www.aozora-im.co.jp/aozorafarm/sns.html?utm_source=tetsusan&report_202412

◆フォロー方法
上記URLをクリックまたは画像を読み取っていただき、各SNSアカウントへ移動後、「フォローする」をクリックしてください。または、各SNSアカウントより「あおぞら投信株式会社」を検索していただき、「フォローする」をクリックしてください。

＼皆さまからのフォローやいいね！をお待ちしております！／